



## 2024年度講座 申し込みはお済ですか？

2023年の講座はいかがでしたでしょうか。ご自身の生活にちょっとしたスパイス的な存在になっていれらうれしいです。

訪問先との調整で、すご技講座が1講座残っていて、受講生の方には予定変更などご迷惑をおかけしています。日程変更がないように進めるのが一番ですが、どうしても変更せざるを得ない場合があります。ご容赦ください。

運営委員会では、より満足度を高めてもらえるように「あーだ、こーだ」と悩みながら、新年度の講座の準備を進めています。2024年度の受講を迷っている方、ぜひ引き続き受講を。お知り合いにもおすすめください。きっと、新しい世界に触れることができると思います。



### 公開講座

★3月4日(月)  
午後1時30分～

(開場午後1時)

・会場：市民交流プラザふくちやま  
市民交流スペース

・内容：内田 樹 講演会

・テーマ：

「新世界秩序と日本の未来

～米中の狭間でどう生きるか～」

・受講料：500円

・予約不要。どなたでも参加いただけます。お知り合いを誘ってご参加ください。

## 12月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのも  
あります。ご了承ください)

### ◆時事問題講座 12月5日

結婚離婚をめぐる最近の事情 講師：大島麻子氏

2023年日弁連クォーター女性理事の任に就き、家では昭和な私と平成生まれの息子のギャップにアップデートの必要性を痛感中。日本の結婚は1972年約110万組のピークから2022年約50万組となった。離婚については同居5年未満は35%で変わらないが20年以上は6～15%へと増加している。一方18歳の意識調査では結婚は男女共60%以上が「希望しているがしないと思う」で、理由にパートナーが見つからないを挙げている。又多様なパートナーシップ制には80%が賛成している。LGBTについては「身体と心の性別が異なる」ことから多様なパートナーシップが存在するが自分が多数派だというより多様性の中の一人であると捉えること大事。パートナーシップ制度は京都府下では五市(福知山市も)が採用している。日本の「ジェンダーギャップ指数」は先進国で断トツ低い(他国が進んだ)。特に政治分野では146カ国中138位。ヨーロッパではクォーター制が強制的に促進されている。結婚・離婚の背景には社会の問題があるが日本は男性優位主義の社会。そして法的離婚、事実上離婚の講義で終わる。

アップデートが大切なことが良くわかりました。一方息子が結婚した時にこちらの姓を届けてと聞き、ほっとした自分がいました。世の中の流れを理解している側に自分はいると思っていましたが、我がこととなると古い自分が存在していることを自覚した次第です。



ベビーブーム時代に生まれた私としては時流に乗りきれない問題ですが、何とかついていけるよう頑張るしかないか？

◆すご技講座 12月6日 長田野工業団地 神戸製鋼所見学

今年のごすご技講座の工場見学としては2回目の開催です。神戸製鋼所長田野工場は1975年操業で、溶接材料を生産されています。工事現場などでよく見かける鉄筋と鉄筋や鉄と鉄をつなぐ溶接棒（被覆アーク溶接とか手溶接と呼ばれているもの）でなく、造船や橋梁などの分厚い鉄板同士を溶接するサブマージアーク溶接というそうですが、この溶接材料と自動車工場や建設機械工場などで自動、半自動で行われる溶接、マグ溶接とかミグ溶接といわれるものの溶接材料を作っている工場です。何のこっちゃ～？銅メッキした溶接ワイヤー、鉄だけではありません。つなげる素材、アルミやステンなどを細くしたものに銅メッキを被覆したもので、製品は主に紙で作られた円筒容器に長さ20km、重さ300kgにして、事業者に出荷されます。



全国で溶接材料217千t生産の内、長田野工場で全体の33%のソリッドワイヤーとサブマージを生産しているとのこと。この工場の生産がストップしたら国内の自動車工場や建設機械工場も影響を受けて、ストップする可能性もあるということです。

概要説明を受けた後、各自、白衣、軍手、ヘルメット装着後、工場見学をしました。この工場は一般の消費者の方が見学することは珍しく、主に関連する事業者の方が見学されると言うことです。しかし、受講者の皆さんは、難しいながらも、興味津々といった感じで熱心に質問されていました。

日常生活している中で、体験できない工場の現場を見学できて、視野が広がりました。

毎回、工場見学では驚くことばかりです。大きな工場に目に見えて働いている人はほんの少力で、ロボットが殆どの工程をこなしている。機械化を実現されるまではこの工程を全て人がやっていたのかと思うと大変だったろうなと思う。

◆すご技講座 12月13日

新春に美味しい日本茶を味わうために 講師：赤井貴恵氏

身近なお茶の講義は受講者さんもかぶりつきで聞かれ、沢山の質問があった。世界のグリーンティー、体に良いと評判のお茶、日本茶は製茶方法から他のお茶とは違っていた。お茶の種類としては不発酵茶にあたり、成分も変わってくる。体に良いのはもちろんだが美味しく飲むための入れ方、また葉っぱの種類による味の違いを好みによって選び、茶器もその種類によって専用のものがある。たくさんの茶器を目にすることがあったが、玉露や煎茶用であったりまた番茶やほうじ茶、玄米茶などのお茶用だったり種類があったことに今更ながら学ばせて頂いた。

お湯の分量と容器、そしてお湯の注ぐ順番、この順番によってちょうど良い温度にする。こんな作法があったんだと改めて普段の自分のお茶の入れ方を見直した。先生の言う通りに入れたお茶はお美味しく家で実践できる最高の講座となった。

綾部、福知山、舞鶴でのお茶の品質が良く、特に抹茶を作る元の葉の碾茶が賞をとったと聞いた事がある。そのお抹茶や地元のお茶を近くの特産館やお店で買えることは有り難い事だ。

この講座のお陰でお茶を飲む機会が増えそうだ。是非美味しく淹れたお茶を家族にもお客様にも味わって貰いたい。



早速、家庭で試したい。身近なお茶なのに知らないことが分かり、目から鱗だった。

毎日あたりまえのように飲んでいるお茶。何気なく入れているお茶ですが奥が深いなあと思いました。もっと丁寧に「おいしくなあれ、おいしくなあれ」と言いながら、思いながら心こめてお茶を入れたいと思いました。

家ではカフェインフリーの麦茶をやかんで沸かし、冷たいお茶を飲んでいました。孫が小さい頃からこの様になったのですが、そろそろ温かいおいしいお茶も入れていきたいと思いました。高いコーヒーを購入するのなら、お茶もお茶の時間に楽しみたいと思います。

◆寄席芸鑑賞講座 12月14日 天満天神繁昌亭ツアー

寄席芸講座、最終日は皆様が楽しみにされていた繁昌亭ツアーでした。

バスの中ではワイワイガヤガヤ、繁昌亭では三扇さんも出演されるという事で掛け声の準備も万端、三扇さんや寄席芸講座に来て頂いた講師の方々の出番には、みんなで「待ってました」と声援を送ると「三扇さんのところから団体さんが・・・」と私達のことを言って下さり、会場がわっと湧き、そのままの雰囲気であいの渦にどっぷり浸ってしまいました。いつも素晴らしい三扇さんの落語ですが、この日は特に繁昌亭で聞くと言う格別感が有りました。笑って笑ってあっという間に8席聞き終わって、外に出ると、出演者の皆様がお見送りされていて、団体の私達は着物姿のままの露のみやこさんや、桂あやめさんはじめ出演者の方々と集合写真を撮って頂きました。

帰りのバスは更に盛り上がり、今回補助席を使った事もあり皆さんの距離感が近かったのも良かったのかもと思いつつ、来年のツアーの予定案も話しながら福知山まで帰ってきました。



昨年はこの講座の受講生でしたが今年は違います。本当に面白く福知山から行っただけの価値がありました。来年度はまた寄席芸に復帰しようかな。

講座において出演された方もあり、気楽に寄席を楽しむことが出来ました。

女流大会大熱演。それぞれ個性があり、いっぱい笑い、楽しい一日になりました。

◆写真講座 12月19日

「今年の一押し」 講師：四方智基氏

最終講座は、まず長安寺の紅葉写真の振り返り。撮影に行ったときは「紅葉も終わりかけでイマイチ」の印象でしたが、作品を見ると、虫食いの葉も芸術的に見えたり、ただ単にきれいな色付きを写すだけではなく、一人一人の視点の違いが出て面白いものです。その後は、今年度の自分の「一押し！」の写真を披露。それぞれ工夫した点、苦労した点、この写真のここが好き！先生のアドバイスもいただきながら思い思いに1年の成果を語りました。先生から「皆勤賞」などのサプライズもあり賑やかに1年を締めくくりました。



写真初心者でしたがその都度ポイントを教えて頂くことで楽しい写真が撮れるようになりました。自分が撮った写真を額に入れ飾ることで自信につながると思います。

◆歴史講座 12月20日

歴史における「断絶」と「連続」―「革新」と「伝統」について―

講師：井口和起氏



歴史における日常に潜む断絶をどう感得するか難しい問題です。認識だけでなく嗅覚も必要のように思います。

なかなか知らないことがたくさんあるものだと感心しました。

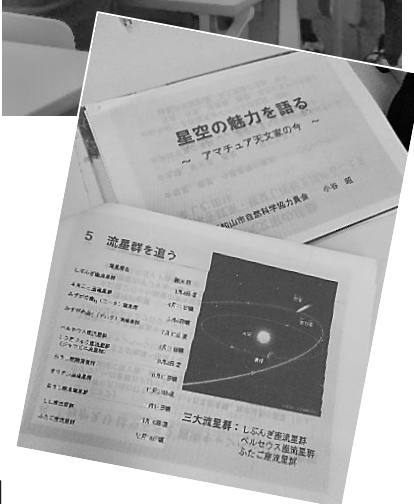
歴史における断絶と連続というテーマで井口校長から講義いただいた。我が国の大きな変革期の歴史認識の問題として明治の「維新論」と戦後日本の「戦後改革」認識が取り挙げられた。明治の維新論では田中彰氏の「明治維新観の研究」（1987年刊）を題材に解説頂いた、主なものとして福沢諭吉などの維新変革を推進した政府の進歩的側面重視の明治維新論、自由民権派の立憲政体を求める維新論などが取り上げられたが『これらも結局は「天皇制的維新論」に取り込まれていった』と指摘された。もう一つの変革期として戦後史のなかの「戦後改革」認識が取り上げられた。その中で戦後改革の基本的特徴として①戦時の支配層の手でポツダム宣言が受諾されたこと、②日本占領は事実上アメリカの単独占領となったこと③米ソ対立を基軸とした冷戦構造が表面化してくる中での戦争終結であったと述べられた。日本の伝統文化についての「日本文化私観」もお話いただいたが 全体として非常に難しいテーマを解り易く解説頂いた講義だった。

◆自然科学講座 12月21日

プラネタリウムと星座・宇宙のお話

講師：小谷昭氏

宇宙のことは本当に難しいことです。映像などで説明を受けましたが、まずスケールが大きすぎて想像の範囲が理解できるものではありません。私たちが距離を表す時はkmですが、宇宙においては光年です。天の川銀河（系内銀河）の大きさでさえ10万光年だそうです。また、宇宙は膨張を続けていると言われていますが、宇宙の外というものがあるのかなどと考えると、もう神のみぞ知る領域だと言わざるを得ません。私のような凡人は、夜空の星を眺めて美しさを求めている方が良いかとも思いました。でも、太陽系に関しては解らなかったことも探査機などでだんだん解明されてきています。やがては太陽系外にも出ていき、物質的証拠も得られるようになるかも知れません。講義の中で皆既日食など天体現象の説明を受けましたが、科学的知見の乏しかった昔の人々にとっては、神の仕業としか思えなかったでしょうね。



60年ぶりに天文学の勉強をさせていただきます。視力が良かったらいっぱい星が見えるのに、残念です。これからはたまには夜空を見上げてみようと思います。

星空を眺めたくまりました。スケールの大きな話にワクワク、感激です！

◆漢字学講座 12月22日

「女へん」があるのに「男へん」がない？!

講師：久保裕之氏



大雪の予報の出る寒い中、無事、最後の講座を終える事が出来ました。12月に毎年、清水寺で発表される今年の漢字は、「税」応募された皆さんはいかがだったでしょうか？

さて、今日のテーマは「部首」について。部首とは何か？「部」はグループの事。では、「首」は？ そのグループの代表となる文字。

「説文解字」という辞書を作った許慎は、1万語の文字を540の部(グループ)に分けた。540で…。それがあまりにも多いと言う事で1716年、清の時代、康熙と言う王様が、作らせた「康熙字典」には214部に統合され、それが今の辞書のもととなっている。

それでは今日のテーマ「女へん」があるのに「男へん」は？許慎は、「私は、漢字は宇宙の全てを表せると考えたのだ。だから『女』も『男』も部首にしたのだ。」と言っている様に540部の中には、「男へん」があった。「男」「甥」「舅」女へんが245字あったのに対して男へんは、たったのこの3文字。部首が統合された事によって、男へんは、解散！「男」は、「田」のグループに。「甥」は、「生」のグループに。「舅」は、「臼」のグループに。

最後に、漢字を得意になる方法は？と、聞かれると、今の学校で習う様な丸覚えの、授業ではなかなか難しい。成り立ちの意味を考えれば興味も沸くし、理解も深くなる。是非来年度も受講下さい。と言う事でした。一年間お世話になりました。ありがとうございました。

毎回とても楽しく受講出来ました。ありがとうございました。希望としては、甲骨文字が、どのように形を変え、今の字のどこに生きているか更に知りたい。

漢字とは、進化の結果ある物と知れたのが良かった。

グループ(部)のトップ(首)を決めた→部首

・肉部 肉胃腎腐肝腹肪脂脱肺

木末本朱机材校横 林部 林森

・刀部 刀削刻初判劇列切則刑

人健作企使仕 儿兒充 兄 先

・人部 ・儿部 ・兄部 ・先部